令和５年度多忙化解消アクションプラン

子どもに元気に笑顔で向き合い、教育活動を進める学校体制づくり
～「多忙化解消」と「働きやすさ」の両輪での「働き方改革」～

下呂市立尾崎小学校

１．目標

本校は、昨年度までに、多忙化解消を目指す教育課程を編成してきた。今年度は、多忙化解消の更なる推進と教職員の働きやすさを求めることで、教職員一人一人が元気に笑顔で子どもに向き合い、資質・能力を高めるための教育活動を進める学校体制づくりを目指した。

２．実践の内容

【基本的な構え】

〇授業づくり・学級経営等のために必要な時間がもてること…欠くことができない学校の基盤

〇温かさのある職員関係の中で安心して職務にあたること…教職員にとっても安心感が基盤

（１）加配教員、フリーの教員の教科担任制による学級担任の空き時間の確保

小学校教科担任（３・５年社会）、教頭（４・６年社会）、教務主任（３～６年理科）や学級担任の交換授業等によって、２～６年生の教科担任制を進めた。

（２）ＩＣＴの活用による業務の効率化

①　ＰＴＡ関係文書のデジタル化

・総会資料、学級懇談会資料、各種活動の案内は PDF ファイルによるメール配信に変更した。

・学級懇談会等の出欠は『Google Form』で登録、集計した。

②　学校内の文書（職員会資料等）はデータのみの配信とし、紙媒体による配付を廃止した。

（３）学校運営協議会（ＣＳ）との連携による教職員の業務縮減

クラブ活動の運営、５年社会（稲作指導）、２年生活（校区探検の引率補助）、水泳指導、６年総合（福祉学習の指導補助）等はＣＳで進めた。

（４）教職員の勤務時間管理の意識を高めるための「タイムマネジメントシート」の活用

・退校時刻が 18 時 30 分を超える場合に、勤務内容・退勤予定時刻を記入し、教頭へ提出した。

・前月までの時間外勤務時間と１日平均の時間勤務時間をグラフ化して提示した。

（５）「働きやすさ」を推進するための職員間の日常的な連携

・低・中・高の学年部での連携や相談（運動会等の各種行事、教科指導、学級経営）を推進した。

・教頭、教務主任、生徒指導主事が各職員をつなぎ、指導の焦点化と重点化を図った。

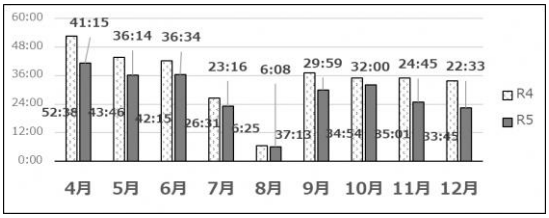
・「私のストレス発散法」「私のアンガーマネジメント法」などを交流し、研修した。

３．評価結果

（１）３～６年担任の空き時間数

	R4	R5
３年	3.5	4.5
４年	5	5.5
５年	4.5	6
６年	5	6
平均	**4.5**	**5.5**

（２）教職員の月別時間外勤務時間（４～１２月）



〇教職員の平均時間外勤務時間（４～１２月）が 19.2%縮減した。(R4:34 時間 43 分→R5:28 時間 5 分)

〇学級担任の空き時間が増加した。(R4:平均 4.5 コマ→R5:5.5 コマ)

〇ＰＴＡ主担当の教頭の平均時間外勤務時間が 11.1%縮減した。(R4:42 時間 12 分→R5:37 時間 32 分)

〇ＣＳとの連携が教職員の業務縮減に大きくつながっていると感じている職員の割合が 83%だった。

〇教科担任制、学校内外におけるＩＣＴの活用、職員間の日常的な連携についての評価が高い。(「「よい」「どちらかというとよい」が 100%)

４．成果と課題

（１）成果

・空き時間を教材研究や分掌事務、学級経営等に充てることで、放課後の業務にゆとりをもって臨めるようになった。

・放課後に児童や業務のことで自発的に話し合うことが増え、その結果、各種行事や児童会活動などの教育活動を、職員が主体的に改善する動きが出てきた。

（２）課題

・各学年単学級のため、担任にかかる負担はまだ大きい。このため、学年部（低・中・高）職員やフリーの職員も含めて、２学年の児童を３人以上の教職員で指導する体制を整備する。